

環境活動報告書 2017

Environmental
Activity Report
2017



目 次

● ごあいさつ	2
● 環境理念と行動規範	3
● 環境方針	4
● 環境マネジメントシステム	5
● 環境マネジメントの取り組み	6
● 環境法規の遵守状況	8
● 環境基金委員会報告	9
● リサイクル報告(2017年度回収量の報告)	10
● 組合員の環境活動トピックス	11
● 地球温暖化防止の取り組みと結果	12
● 店舗事業の電気使用量の取り組み	13
● 店舗事業の電力使用量削減結果	14
● 店舗事業の電気使用量削減結果	15
● 燃料使用量削減の取り組みと結果報告	16
● 太陽光発電レポート	17

ごあいさつ

環境活動についての1年間の取り組みとその到達点を、毎年この時期にコープおおいたのステークホルダーのみなさまへご報告しています。個々に性格の異なる取り組みが各種ありますが、事業や組合員活動を通して、全体の到達目標を決め、そこに向けて全ての事業所にて実践してきました。環境活動だけを報告すれば事足りるわけではありませんが、この間継続して実施出来ており、かつ、前進出来た分野でもあります。進捗を振り返る大切な機会として、このまとめを通して現状を共有しておきたいと思っています。



専務理事 江藤 隆康

さて、国連で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」では、行動計画として17のゴール「持続可能な開発目標(SDGs)」が掲げられ、加盟する全ての国への努力を求めています。生協では、これらの目標の主旨とほぼ同列の取り組みを積極的にすすめてきた歴史があります。全世界での取り組みが今後広がっていく中で、これからはその活動のトップランナーにならなければと強い意識を持ちつつ、具体的な行動の落とし込みをしていく必要があります。中でも、「気候変動への対処」という課題は、他の17のゴールのいくつかとも密接に関連しており、最重要と位置付けられても不思議ではありません。

パリ協定による脱炭素社会に向けた取り組みは、具体的な対策として、既に動き始めている最たるものです。しかしながら、その到達のハードルの高さ、先進国と途上国の足並みの違い等々、履行に向けた取り組みが前進するにはまだ不透明さが残っています。一方では、すでに各国で異常現象が起こり始めているのも事実です。わたしたちに出来ることを着実に実行していきます。日本生協連では、全国の生協に向けて、「2030年目標:CO₂排出総量を2013年比40%削減する」「2050年目標:CO₂排出総量を2013年比90%削減する」ことを提起しました。抜本的な対策なくして、この数値目標への到達は非現実的に思えます。これからの中長期のビジョン策定の一環にこの取り組みの具体化を置きつつ、各生協での施策を検討していきます。

おわりになりますが、組合員数が16.2万人を超え、大分県全世帯の3分の1を組織する消費者団体としての期待とその責任はより高くなったと考えています。果たすべき社会的責任を実行するに留まらず、より多くの地域社会貢献を、環境の取り組みを通して今年度も推進していきます。

この環境活動報告書には、組合員や役職員、お取引先のみならず、多くの関係先のみならず、コープおおいたの取り組みをお知らせすることで、組織としての責任を果たすべく作成しております。ご一読いただき、叱咤激励も含めて忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

今後とも引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

環境理念と行動規範

生活協同組合コープおおいたは、事業者として求められる社会的責任を果たし、生活協同組合として地域社会におけるアクションリーダーの役割を果たしていくことを基本理念として掲げ、下記に上げる行動規範(考えたり、行動したりする時の基準)に沿って行動します。

◇責任性の視点

国や行政監督省庁の指針や指導・指摘事項に沿った責任を果たす姿勢

◇規律性の視点

関連法令、条例を遵守する姿勢

◇積極性の視点

地域社会の中で先頭に立って積極的に取り組む姿勢

◇先進性の視点

地域社会の中で未だ事例のない先進的な取り組みに果敢に取り組む姿勢

◇公開性の視点

行動計画、実際に取り組んだ行動や結果を内外に積極的に広報する姿勢責任性、規律性の視点は一事業者として求められる社会的責任を果たしていくコンプライアンス(法令遵守)の考え方です。厳しい事業環境下にあっても、社会的責任は果たしていく決意を表しています。

積極性、先進性の視点は、生活協同組合として地域社会におけるアクションリーダーの役割を果たしていくことを表しています。地域社会における消費者組織として要求事項を超える取り組みを行ない「生協に入ってよかった」、「生協のある町に住んでいてよかった」と評価していただける組織として在り続けたいとの願いを込めています。

公開性の視点は、時々の経営状況報告はもちろん、「環境保全活動に関わる要求事項に関する情報発信」、「それに伴う活動計画」、「活動した内容と評価について」、関わる全ての人が、同じ目線で同じ理解ができている状態を作ることが必要だと考えます。内外広報の実施に関する誓約の意思と、生活協同組合コープおおいたの全てのステークホルダーのみなさまへ、定期的に活動の報告をさせていただく決意を表明しています。

環境方針

地域の中で、事業活動を行なう組織として求められる社会的責任を果たしていく上で、生活協同組合コープおおいたは、環境理念、行動規範に沿って以下に掲げる環境活動方針に沿って行動しています。

～生活協同組合コープおおいた 事業活動分野環境方針～

1. 生活協同組合コープおおいたは、環境問題を生協運動の根源的課題として位置づけ、その行なう事業活動、取り扱う商品、行なうサービスにより発生する環境影響の大きな項目について、環境に関わる法令、条例、受け入れを決めたその他の要求事項を遵守し、技術的、経済的に可能な範囲で、環境の保全活動を自ら設定し、率先して取り組みを実行します。
2. 設定した環境保全活動目標は、環境マネジメントシステムに従って確実に実行していき、定期的に検証と見直しを行ない、最善を尽くします。
3. 以下の事項を、環境保全活動の柱に置き、活動をしていきます。
 - ① 組合員および事業連合や取引先の方と協同して、産直商品やコープ商品を中心に、より環境負荷の少ない商品、安心・安全な商品づくりを進めながら、環境に配慮した商品のうち、年度毎に重点商品を設定し、普及します。
 - ② 各事業所におけるエネルギー（電力、ガス、車両燃料など）使用効率を高めて、供給高1億円あたりのCO₂排出量を、定期的に実測把握・検証し、抑制します。
 - ③ 容器包装及び梱包材の削減と再資源化を推進します。
 - ④ 紙の使用量を削減します。
 - ⑤ エコドライブ（急発進、急加減速、急なハンドル操作をしないなど）を実践し、業務車両の燃費向上とともに廃棄ガスに含まれる有害物質の排出を抑制します。
 - ⑥ 店舗の商品ロスなどの廃棄物削減と再資源化を推進します。
 - ⑦ 環境配慮型の施設作りを推進します。

以上の活動を進めるために、学習の場や会議などを通じて、すべての職員に対する教育・啓発を積極的に行ないます。この環境方針はコープおおいた内外に公表します。

環境マネジメントの取り組み

環境推進委員会の報告

環境推進委員会を定期開催し、環境マネジメントの取り組みを推進しました。

事業活動分野の推進指標は、2016年度に続き「供給高あたりのCO₂排出量」に設定し、「環境に配慮した事業活動」を行なうための〈施策検討～実行～振り返り～新たな計画〉として進めてきました。

事業活動分野以外では、国土交通省大分河川国道事務所「道守大分会議」で大分の道路を美しく守る一環として、マラソン選手を応援し、キレイな沿線を全国の皆さんに見てもらうことを目的に毎年「別大毎日マラソン前日の清掃活動」を行なっています。

コープおおいたもその活動に賛同し、別大毎日マラソンスタート地点である「うみたまご」周辺の清掃ボランティアに参加しました。



別大毎日マラソン前日の清掃活動

環境省補助事業「CO₂削減ポテンシャル診断事業」への採択

環境省助成事業「CO₂削減ポテンシャル診断事業」に採択され、「CO・OPふらいる」と「コープつくみ」のCO₂削減可能性を診断し、報告しました。

環境監査委員会報告

1. 環境監査方針

- ①引き紐等、エコ事業所の推進状況の確認
- ②電力使用量・使用料金の増加事業所の要因と対策提起
- ③省エネチューニング実施の把握

2. 監査事業所

(1)事業所監査

- 【日出センター】実施日 2017年 5月10日(水) 【コープ下郡】実施日 2017年 7月26日(水)
- 【畑中センター】実施日 2017年 8月 8日(火) 【二目川センター】実施日 2017年 9月11日(月)
- 【コープうすき】実施日 2017年10月11日(水) 【コープつくみ】実施日 2017年11月22日(水)
- 【コープ別府店】実施日 2018年 1月24日(水)

- (2)省エネチューニング監査 監査実施場所：コープ別府店 2017年4月20日(木)

3. 所見

昨年同様、省エネ事業推進の基本である5S活動は、引き続き、継続されており、総体的に整理・整頓が行き届いています。また、年々、エコ推進事業者としての取り組みが高まっています。

ただ、以下のようなことを心掛けると、さらに、省エネ事業推進が深まると考えます。

①エアコンの設定を適温に

- ⇒ 夏場：27℃、冬場：20℃を厳守しましょう。
- ⇒ グリーンカーテン等の電力を使用しない工夫をしましょう。

②トイレの管理を

- ⇒ 便座の温度設定を適温管理しましょう(夏場はOFFに)。
- ⇒ 便座の蓋閉めを徹底しましょう。

③電気機器の管理を

- ⇒ 引き紐を徹底してください。
- ⇒ 使用していない電気製品のコンセントを抜くように心がけてください。

④啓発強化を

- ⇒ あらためて、省エネステッカー等を統一制作し、全事業所に一斉配布してください。
- ⇒ 省エネ事業所活動を全社的に推進しましょう。

以上、4点が、コープおおいたの省エネ事業推進課題です。18年度は、この4点を中心に、引き続き、環境監査を実施します。

環境法規の遵守状況

法規制は、環境マネジメントにおいて最も基本的な要素であり、その順守に努めています。関連する主な環境関連法規及び規定は次の通りです。尚、2017年度において順守事項についての対応は、問題なく実施することができました。

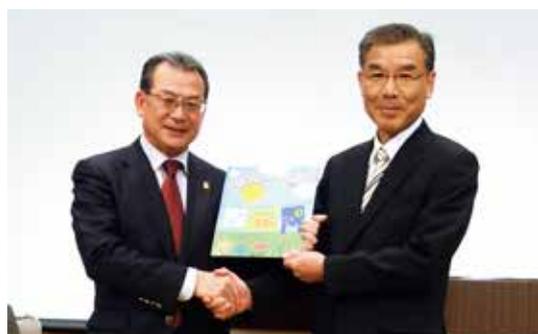
法律・条例名	遵守事項	実施内容
消防法	防火管理者の設置。	防火管理者の選任及び変更届を提出しました。 設置部署の定期点検を実施しました。
水質汚濁防止法	店舗の惣菜フライヤーの使用 済み油の措置。	油の流出事故時の措置として関係者へ 管理手順の教育実施をしました。
浄化槽法	浄化槽の定期水質検査、保守 点検、清掃の実施。	保守点検の定期実施と年1回の法定検 査を実施しました。
廃棄物の処理及び 清掃に関する法律 (廃棄物処理法)	廃棄物の排出を抑制し、廃棄 物を適正に分別・保管・収集・ 運搬・再生・処分する。	産業廃棄物処理委託業者の許可証有効 期限を点検・確認しました。 マニフェスト(産業廃棄物管理票)の発 行を確認し、行政への定期報告書を6月 までに提出しました。
食品リサイクル法	食品廃棄物の発生抑制を優 先し、「発生抑制」「再生利用」 「熱回収」「減量」を促進。 45%の再生利用を実施。	8店舗で排出された生ゴミの堆肥化を 実施し、リサイクル堆肥を使用した野菜 の生産と店舗での販売を行ないました。 行政へ定期報告書を6月までに提出し ました。
容器包装 リサイクル法	容器包装廃棄物の排出の抑 制、分別収集および再商品化 を促進。	(財)日本容器包装リサイクル協会と再 商品化委託契約を結び再商品化義務を 履行しています。 行政への定期報告書を6月までに提出 しました。
エネルギーの使用の 合理化に関する法律 (省エネルギー法)	〈工場等〉特定事業者認定に よる定期報告書の提出。	経済産業局等へ定期報告書・中長期計 画書を7月までに提出しました。
	〈輸 送〉特定輸送事業者認 定による定期報告書の提出。	九州陸運局への定期報告書を6月まで に提出しました。

環境基金委員会報告(各種リサイクルの収益と使途に関する報告)

カタログや集品袋のリサイクル収益や、レジ袋削減の益金を「環境基金」として毎年積み立てています。2017年度も、環境基金委員会で基金の使途について協議し、環境に関することに有効活用していくことを決めました。「環境基金」は地域で環境活動を熱心に行なっている団体やグループへの助成(コープおおいた環境基金助成金)、県内の幼稚園・保育園へ環境に関する絵本の寄贈、大分県への寄付(大分県環境基金寄付金)、里山保全活動をしている大学への助成(里山保全等環境保護活動研究助成金)に有効活用しました。



大分県へ レジ袋益金贈呈



大分県私立幼稚園連合会へ絵本の贈呈



コープ上野の森口保育園へ絵本の贈呈



里山自然観察会の様子

～2017年度 コープおおいた環境基金決算報告～

収入の部	
前期繰越金	10,353,102
レジ袋益金	1,419,421
古紙等リサイクル収益等	155,399
収入の部合計	11,927,922

支出の部	
障がい者施設リサイクル作業料	322,350
大分県地域環境保全基金寄付	115,000
絵本の寄付	488,677
里山保全等環境活動研究助成金	200,000
組合員向け環境活動支援金	15,200
環境基金助成金	1,400,000
広報費(チラシ・ポスター等)	0
交通費等	8,830
会議費等	10,648
委託料(日当・残高証明手数料等)	21,588
予備費	0
支出の部合計	2,582,293

リサイクル報告(2017年度回収量の報告)

コープおおいた 環境活動



「一人ひとりの一歩は小さいけれど、みんなの力を合わせれば大きくなる」を合言葉に、2017年度も多くの組合員の皆さんに、コープおおいたの様々な環境活動にご協力いただきました。

2017年度 回収量の報告

牛乳パックとカタログの回収量

約88万3,927kg
(前年比 103.36%)

回収量の7割がトイレトーパーやティッシュの実質の原料となります。
コアノンロール130m(S) 1個276gで換算。
約224万1,843ロールが再生されました。

タマゴパックの回収量 (共同購入・個配対象)

約3,398kg
(約16万9,900枚)(前年比 69.35%)

1パック約20gとして換算。
タマゴパックとして再生されました。
中にはリサイクル対象外の素材も含まれていましたが、それらはベレット化され繊維材料となりました。

プラスチックトレイの回収量 (店舗のみ)

約2,445kg
(約48万9,000枚)(前年比 101.95%)

枚数は1枚平均5gとして換算。
トレイ1tあたりに原油2,400ℓ
(原料+製造するためのエネルギー)が使用されています。

マイバッグ持参数

449万6,827人
(前年比 94.85%)

マイバッグ持参率87.58%。
レジ袋1枚に原油10mℓ(原料+製造エネルギー用)が使用されています。

ペットボトルキャップの回収量

約1,581kg
(約63万個)(前年比 58.56%)

回収したペットボトルキャップは、回収業者を通じてプラスチック原料としてリサイクルされます。

集品袋・カタログセット袋回収量

約4,625kg
(約154万125枚)(前年比 85.65%)

1枚平均3g(333枚/1kg)として換算。
リサイクルポリ袋として再生されています。

廃油回収量 (店舗のみ)

約4万8,960ℓ
(前年比 92.15%)

ドラム缶に換算すると、約245本分に相当。バイオディーゼル燃料として生まれ変わっています。
※コープおおいたでは燃料として使用せず、廃油の回収のみ行なっています。



※コープ大分駅店はテナント出店のため、リサイクル回収BOXの設置ができず対象外となります。また、廃油はコープ大分駅店、コープ別府店、コープ本町店では回収を行っていません。ご了承ください。

	回収量	単位	係数	単位	t-CO ₂
牛乳パック・カタログ	883,927	kg	0.036500	CO ₂ /t	32.26
レジ袋	6,090,900	枚	0.001167	kg/枚	7.11
タマゴパック	3,398	kg	2.632800	CO ₂ /t	8.95
プラスチックトレイ	2,445	kg	2.632800	CO ₂ /t	6.44
製品袋・カタログセット	4,625	kg	2.632800	CO ₂ /t	12.18
廃油回収	48,960	ℓ	2.952800	CO ₂ /t	144.57
ペットボトルキャップ	1,581	kg	2.632800	CO ₂ /t	4.16

組合員の環境活動トピックス

「エコライフゲーム」を楽しみました。

9月9日、コープおおいた創立65周年記念フェスティバル(大分銀行ドーム)で、多くの親子がエコライフゲームを楽しみ、身近な環境配慮行動を学びました。子どもたちが、ゲーム(環境すごろく)を通じて、「テレビゲームをする時間を1時間短くしたら、環境にいいんだ!」「お風呂でシャワー出しっぱなし駄目だよ」と、楽しみながら環境学習をしていました。ゲームを見守るお母さん方も、家庭内での環境への配慮に気づかれているようでした。



親子体験スクールin清川(体験農場)

豊後大野市清川町での体験農場では、1年を通じて、春の部(4月8日～7月15日 参加人数72名)、秋の部(9月2日～11月25日 参加人数39名)で、総勢111名の組合員が参加しました。

清川ふるさと物産館の休耕地をお借りして、農業法人(株)夢ファームおおいたの指導のもと、家族で農業体験を行なう食育の取り組みを継続しています。農場には店舗から排出される残渣(野菜のくず、魚のアラなど)を堆肥として再生した「エコ堆肥」を使用しており、循環型農業のモデルとして取り組んでいます。



水生生物観察会

7月8日～8月11日の間に県内4カ所で、水生生物観察会を開催し、総勢97名の組合員が参加しました。自然豊かな大分県の河川や干潟、海や池、そして田んぼなどには様々な生き物が生息しています。親子水生生物と称して全体企画や各エリア、コープ委員会の企画として開催し、生物多様性や環境について学ぶ機会になっています。



地球温暖化防止の取り組みと結果

地球温暖化防止自主行動計画について

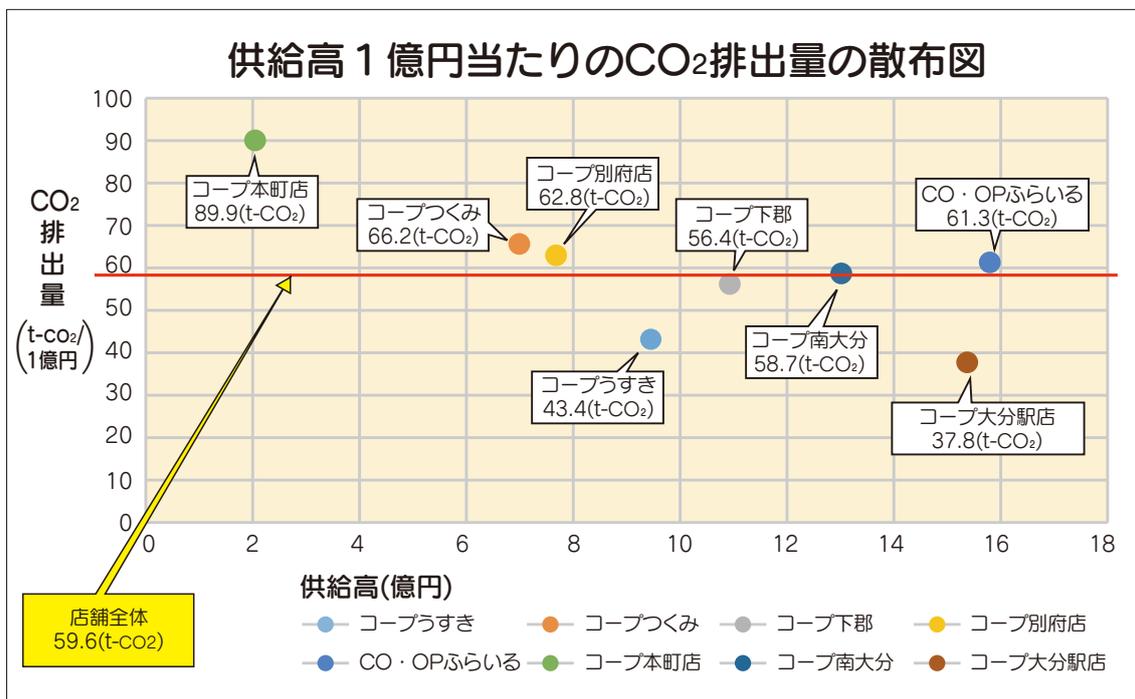
環境方針「各事業所におけるエネルギー（電力、ガス、車両燃料など）使用の効率を高めて、供給高1億円当たりのCO₂排出量を定期的に実測把握・検証し、抑制します。」を重点に事業と環境の連動に取り組みました。

供給高1億円当たりのCO₂排出量に着目し、環境推進委員会で進捗状況の確認を行ない抑制を実現できました。

◇2017年度の取り組み

	使用量	単位	CO ₂ (t-CO ₂)	供給高	供給高当りCO ₂
電力(九州電力)	5,829,514	kWh	3,078	178.86 (億円)	34.03 (t-CO ₂)
電力(PPS)	3,935,854	kWh	1,972		
ガソリン	155,385	ℓ	360		
軽油	239,674	ℓ	618		
灯油	9,520	ℓ	24		
ガス	11,163	m ³	33		
合計			6,086		
太陽光	5,574,732	kWh	303		
リサイクル	P10参照		216		
削減効果			519		
実質排出			5,567		

※指標として推進した「供給高1億円あたりのCO₂排出量」を大きく削減することができました。



店舗事業の電気使用量の取り組み (既存店舗とセンター)

① 空調・冷蔵室外機高圧洗浄

空調や冷凍・冷蔵ショーケースの室外機には、ごみ・ほこり・カルキ等が付着することにより、吸気効率が悪化し電力負荷が大きくなってしまいます。

(外気を吸い込む場所の目詰まり等を取り除くことで、外気取り込みがスムーズになり、効率が良くなります。)

店舗、センターを年2回のペースで、吸気効率の改善を目的に室外機の洗浄(溶剤使用)を実施し、省エネを実現しました。



② 空調・冷蔵室外機への散水噴霧対策

冷蔵庫や空調機の室外機の吸気温度が上昇して効率が低下しております。

室外機熱交換部へ吸気温度の低減を目的とした噴霧装置や散水装置を設置し、大きな省エネ効果を得ました。



③ 冷蔵冷凍室外機 ショートサーキット防止対策

冷蔵庫や空調機の室外機の排気(温風)を吸気部分から極力吸い込ませないようにすることで、効率を上げていこうという対策です。

温風排気遮断(防止)板を設置し、暖気の吸込み防止と遮光という省エネ効果を得ました。



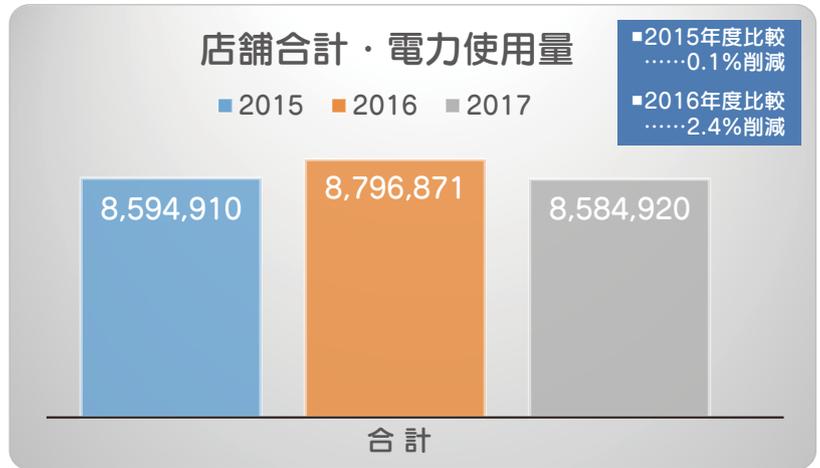
店舗事業の電力使用量削減結果

店舗別・電気使用量の推移

店舗の合計電力使用量の3年間比較

2016年度増加したことを省みこまめな省エネに取り組みました。その結果2.4%の削減ができました。

2018年度も更なる省エネに努めていきます。

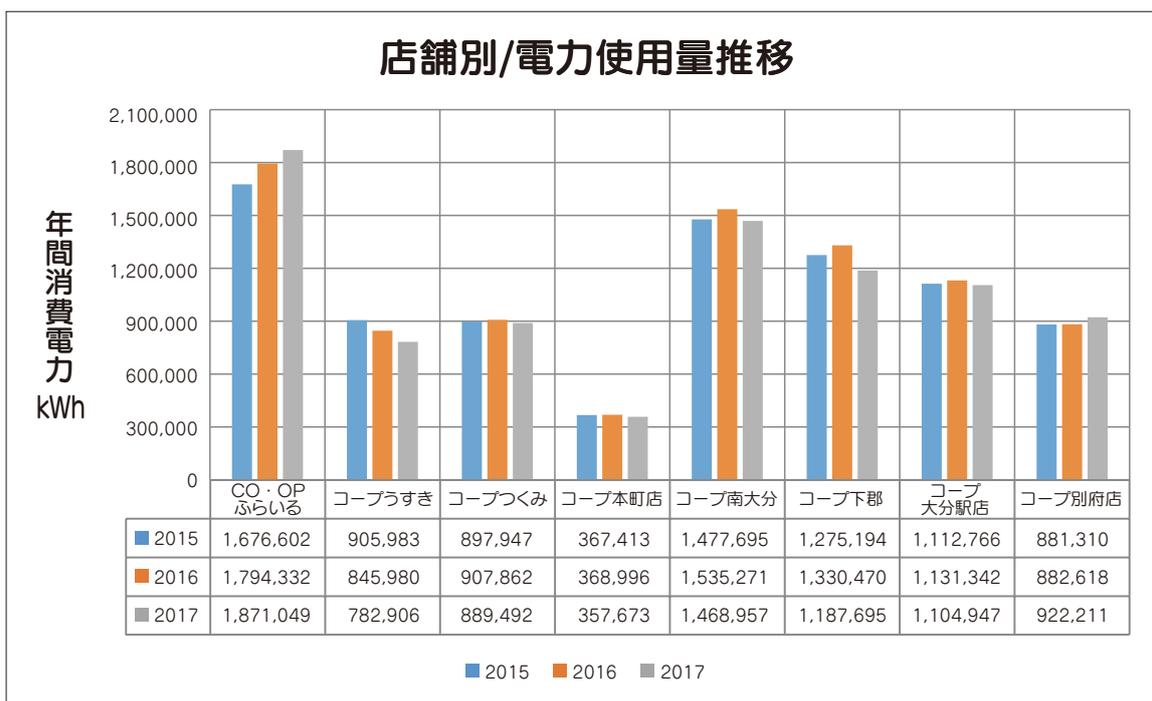


店舗の合計電力使用量推移の3年間比較

2016年度対比で使用量が減少しているのは、「コープうすき」「コープつくみ」「コープ本町店」「コープ南大分」「コープ下郡」「コープ大分駅店」の6店です。

電力使用量の多い、「コープ南大分」「コープ下郡」の削減が、全体の削減に貢献しているのが分かります。

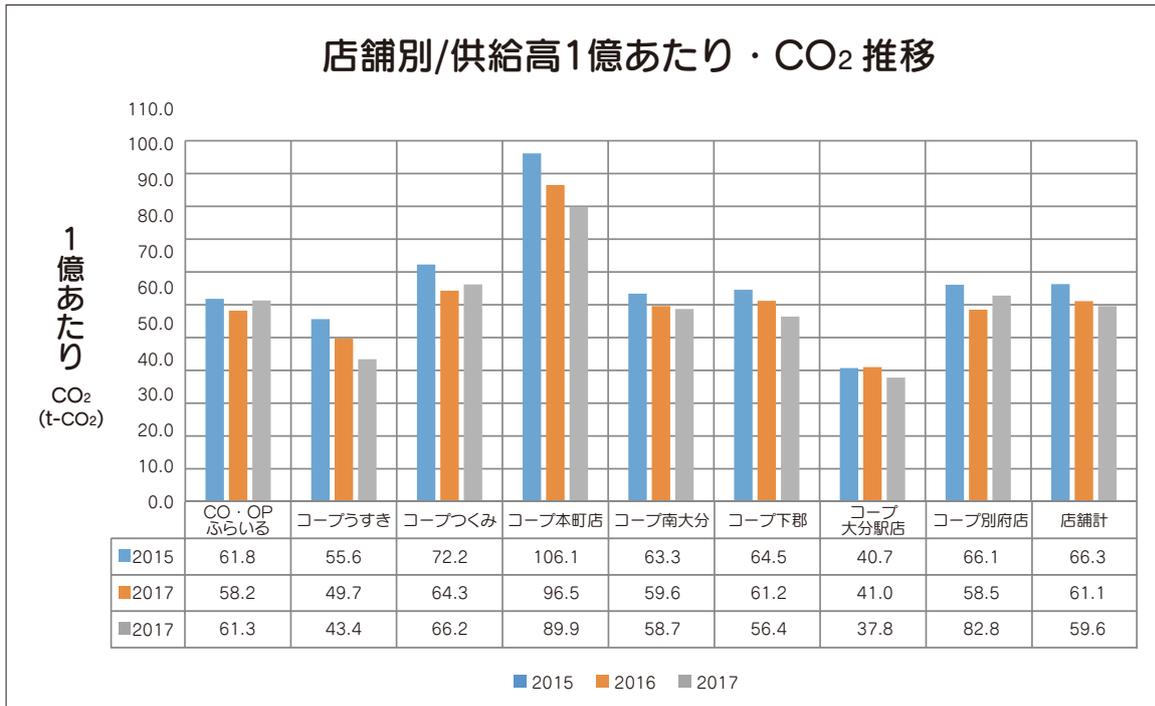
「コープうすき」は2016年に実施した「店舗リニューアルに伴う省エネ機器導入」が大きく貢献しています。



店舗事業の電気使用量削減結果

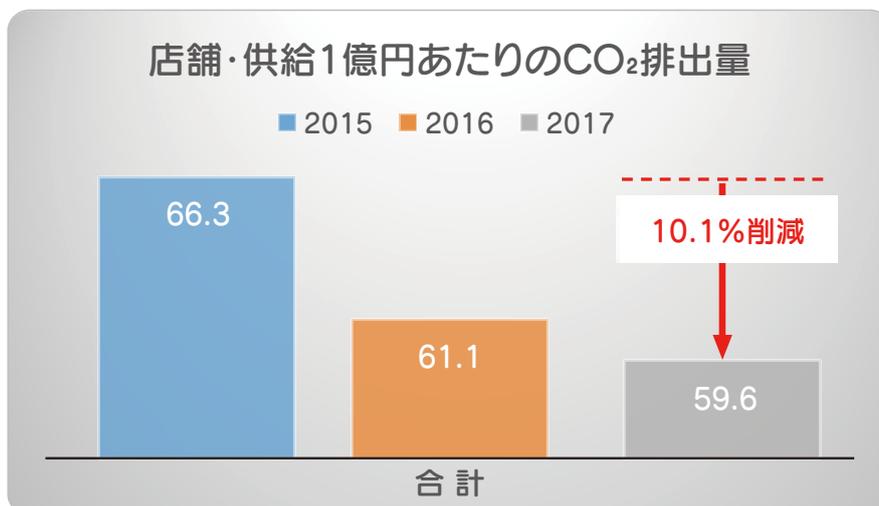
店舗別の供給高当たりのCO₂排出量の推移

コープおおいたの、地球温暖化対策指標として「供給高1億円当たりのCO₂排出量」の低減を自主活動計画にうたっています。



各店舗の地道な環境配慮行動の賜物です。

また、電力自由化の中、「再生可能エネルギー比率」が高く、地域電力よりCO₂排出係数が低い新電力会社を選択したことも、全体の削減結果に繋がりました。



燃料使用量削減の取り組みと結果報告

宅配事業の配送分野を子会社(コープサービスおおいた)へ移行しました。

削減取り組みは、「車両1台あたりの燃料使用量」を指標に、推進してまいりました。

取り組みの柱である「安全エコドライブ」を業務で運転する職員に徹底すべく、その学習と実践を強めてきました。

結果、**車両1台あたりの燃料使用量を7.4%削減**(2016年度対比)できました。

	2015年度		2016年度		2017年度	
	実績	使用量/台	実績	使用量/台	実績	使用量/台
ガソリン(ℓ)	108,710	1,090	122,976	1,142	155,385	1,168
車両台数(台)	100	—	108	—	133	—
対前年対比	—	—	113.1%	104.8%	126.4%	102.3%
軽油(ℓ)	262,711	2,390	242,599	2,187	239,674	1,965
車両台数	110	—	111	—	122	—
対前年対比	—	—	92.0%	92.0%	99.0%	90.0%
合計	371,421	1,771	365,575	1,672	395,059	1,549
車両台数	210	—	219	—	255	—
対前年対比	—	—	98.4%	94.4%	108.1%	92.6%

事故を起こさないことを再徹底するために、「安全学習会」や「各事業所での日常チェック」など行なっています。

あわせて「エコドライブ(特にふんわりスタートと急加速しない運転)」をより徹底していくことで、CO₂排出量削減と無事故運転に努めていきます。



太陽光発電レポート

太陽光発電の発電量は、順調に推移しています。これは、日射量が多いという事もありますが、定期的に行なっている適切なパネルメンテナンスが大きく貢献していると考えられます。

大分県の住宅1戸あたりの電力消費量は(5,486kWh)です。総発電量を換算すると、125戸分に相当します。

生協として、再生可能エネルギーによる発電という事業を通して、温暖化防止の一助となることを支援していきたいと考えています。

◇年間発電実績

単位：kWh

	2015年度	2016年度	2017年度
コープ南大分	204,426	209,907	210,168
コープ下郡	186,966	191,628	195,426
三重センター	52,559	55,538	55,246
宇佐センター	54,480	56,118	57,187
日出センター	52,773	55,897	56,705
コープ別府店	51,390	54,565	56,014
コープうすき	51,753	55,658	56,600
合計	654,347	679,311	687,346



日出センター



宇佐センター



コープ別府店



コープうすき



環境活動報告書

発行: 2018年6月

お問合せ: 総務部 (☎097-524-0111)

ホームページアドレス <http://www.oita.coop>